

ばってん

事務長会報第12号

平成14年10月1日

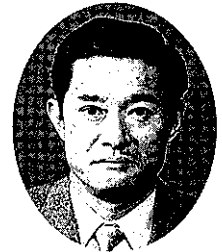
長崎県公立学校事務長会

長崎南高等学校内
〒850-0834 長崎市上小島4-13-1
電話 095-824-3134



新たな出発

会長 松尾隆行 (長崎南高等学校)



爽やかな季節となりましたが、会員の皆様にはますますご清祥にて職務に精励のことと存じます。

さて、今春の総会で会則の改正をお願いしましたが、それは、各部の活動の活発化と広報誌「ばってん」の継続的な発行を望んでのことでした。

各部の活動の活発化は、具体的には、本会において取り組む課題等について、従来、専門委員会を設置して調査・研究等してきたものを、今後は、各部で取り組んで行こうとしたものです。また、その取り組む課題等についても、これまでの事務局提起に加え、広く会員からも提起をお願いしたところです。その結果、会員からの提起6件を含め11件について、6月末の理事会に諮り、本年度は次の6件について取り組んでいくこととなりました。

1 ペイオフ対策について (総務部)

ペイオフについては、来年の4月から普通預金についても実施される予定であり、殆どの学校が何らかの対策を講じなければならないのではないかと考えております。そうであれば、その対策等について、マニュアル的なものを作成・配布し、個々の学校の参考に資そうとするものです。

2 私費会計のオンライン処理について (総務部)

現在、私費会計経費の業者支払いについては、その都度、銀行窓口へ出向し、口座振替の手続きを行っているところです。この取り扱いについて、銀行からオンライン化しては、との話がありましたので、そのメリット、デメリット、特にデメリットについて、その対策等を含め検討するものです。併せて、授業料等の口座振替に係る事務処理もこのオンラインで処理できないか検討することとしています。

3 完全学校週5日制に伴う学校開放実状調査について (研修部)

完全学校週5日制となり、自校生徒の補習や自学のための登校、また、地域住民等への体育館、図書館、調理室等の開放が多くなっていくものと思われる。それに伴い事故等の危険性も増してきますし、事務室内に設置してある火災等防災システムの監視を誰が行うか等の問題が生じてくるものと思われます。そのようなことから、各学校の実態を調査・研究し、適切な施設管理に資そうとするものです。

4 地球温暖化防止に係る各学校の取り組み状況及

び対策について (研修部)

温暖化防止については、県の実行計画が示され平成12年度から各学校においても計画を策定し、取り組みがなされていることと思っておりますが、計画どおりにいかない部分も多々あるのではないかと思います。そのようなことから、各学校のこれまでの対策や実績等を調査し、個々の学校の計画推進に資そうとするものです。

5 人事事務の手引の改訂版発行について (調査部)

人事事務の手引は、前回作成から3年経過しており、その間、様式の改正等が多々あるため改訂版を発行し、事務の適正化・省力化を図ろうとするものです。

6 歴代校長・教頭・事務長名簿の最新版発行について (調査部)

当管理職名簿についても、前回作成から3年経過しているため最新版を作成するものです。今回からパソコンでの手作りとし、内容的にも少し手直して、より利用し易いものができればと思っております。

次に、広報紙「ばってん」の継続的発行についてですが、これまで、「ばってん」は、山戸事務長さんを委員長とする島原・南高地区事務長で組織する広報活動委員会のお世話で、素晴らしいものが発行されてきました。毎回の発行までの苦労は並大抵ではなかったと聞いており、心から慰労申し上げます。その広報活動委員会も設置期間が前年度末限りでしたので、今後は、常置機関としての広報部を設置し、継続的に発行できる態勢をお願いしたところです。部長には、副会長(広報担当)が当たりますので、いろんな情報等がより広く、早く、詳細に入手できるので、それらも紙面に反映されていくのではないかと考えております。当面は年2回の発行ですが、将来的には年6回位は発行して欲しいと願うところです。

以上、会則改正の趣旨等を申し述べましたが、私は、この改正を「新たな出発」と位置づけております。既に、各部においては、鋭意取り組み中ではありますが、その成否は、部員である会員の皆様如何ではないかと思っておりますので、よろしく協力の程お願いいたします。

九州地区事務職員協会 研究大会を終えて

県公立学校事務職員協会長

橋村 鴻志(佐世保北高等学校)

記念すべき第50回九州地区事務職員協会研究大会を本県の主催で、6月12日～14日にオープン2年目のアルカス佐世保において会員650余名(内本県190名)、全国協会から大杉副会長他2名の方の参加を得て盛大に開催しました。

開会式後の表彰式では、永年勤続表彰者101名(内本県11名)役員功労表彰者3名の方の表彰を行いました。

特別講演は、国見高校の小嶺校長先生に「動」という演題でお話を頂きました。丁度、ワールドカップサッカーの開催中で、誠にタイムリーな、参加者に元気を与えた講演でした。

大会のメインである研究発表は、討議を深めるため、昨年に引き続き3分科会で実施し活発な研究討議がなされました。各県の研究発表中2題が、情報公開関係で、昨今の学校における情報公開に対する関心の高さが窺えました。また沖縄県の「授業料徴収事務の現状と課題」は各県共に悩み多い問題で、沖縄県の滞納者に対する罰則規定(出席停止・退学)の適用に関して、多数の質疑がありました。なお本県からは、「ゴミ処理」問題で老岐・対馬地区が、研究発表を行い好評を博しました。

大会を通して感じたことは、長崎県の事務職員の皆さんの優秀さです。各自の役割を十二分に果たしてもらい、スムーズな大会運営ができました。

お陰様で、例年にないすばらしい大会となりました。これも偏に、大会実行副委員長としてご協力頂きました、松尾事務長会長を始め事務長さん方のお陰だと深く感謝している所です。また、各学校には、多数の会員の参加を頂き厚くお礼申し上げます。

学校事務の現況は、教育改革等の進展に伴い、従来の考え方では対応できない様々な問題が生じており、事務職員協会もその解決に向けて努力していきたいと思えます。今後共、本協会に対するご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

意見 異見 違見

教育が変わる -求められる自己評価と情報提供-

大村工業高等学校 主任 高西 正 隆

あの日以来、頭の片隅ですっと気になっていることがある。それは、5月の職員会議の最後に校長から「小学校・中学校設置基準の制定等について」の通知文が配布された。その内容は、高等学校設置基準が改正され「自己評価等」と「情報の積極的な提供」が義務づけられたということであった。そこで校長から、この二つのことについて、実施に向け準備を進めるようにという指示が全職員にあった。

「自己評価」及び「情報提供」について、概念的には理解することができる。しかし、実施するに当たっての手順が頭の中になかなか浮かばず、腰を据えて考える気になれなかった。そこで、この機会に学校事務職員として少々考えてみた。

まず「自己評価」について考えてみることにする。学校業務は教育課程の編成と実施に関する活動(教育活動)と、それを支える活動(運営活動)に分けられるであろう。「教育活動」の評価は、ある程度の研究及び実践がなされているが、事務職員と関わりが深い「運営活動」については、評価の方法がまだ確立されていないようである。それではどう実施するのか、まず、評価を行う対象は学校教育目標実現のための計画や実践である。計画として事務に関わる具体例としては、運営費の執行や設備の整備及び施設の整備計画等が考えられる。これらの計画を実施する過程の中で個々の作業の評価を行うことで、当初の計画の評価がなされることになる。このことが次年度の計画の見直しに生かされる。この積み重ねが、評価方法の確立と、教育活動自体のレベルアップにつながるものとする。

要は、学校教育活動は内部だけで帰結するのではなく、外部への発信の重要性が増しているのである。法令・規則の熟知だけではなく、常に自己評価を行い改善を進め、その過程を外部発信するという実行力や技術が求められていると思う。今後、さらに「自己研鑽」に励まねばならぬと認識した次第である。

地区だより

諫早養護学校 前田 郁雄

諫早地区では、年6回程度の地区事務長会を給料支給日の午後で開催しています。地区内8校が輪番で当番校になり、各校からの協議題や照会事項を収集・整理し、事前にFAX等で送付しておきます。当日、その協議題等に対する意見や回答を付し持参します。8名という小人数であるがゆえに自由闊達な意見が出る情報交換の場となり、時には議論伯仲する研究協議の場ともなります。もちろん、時間オーバーの場合は、引き続き行われる懇親会の中で和気あいあいと、いうこととなります。

ところで、この会で研鑽してきた協議題等を眺めてみると、次のようなものが並んでいます。平成12年度の6月はパソコンを持ち込んで諸調査とエクセルの活用。7月は給料、特殊勤務手当、身分証明、叙位叙勲。9月は服務、耳鼻科検診、私費会計の口座振込手数料、ALTの税、学校沿革誌。11月は学校予算、公私負担の分別、学校評議員の御礼。1月は部室の管理、仕事納め等、事務長の学校行事出席、学校令達工事等の業者選定。2月は自家用車通勤の距離確認等認定関係事務、生徒用机椅子のJIS規格変更、大規模改修の手順、公印管守、県立学校処務規程等の遵守指導状況。

平成13年度の7月は維持補修計画、事務補助委託、学校における物品販売・勧誘状況、時間外勤務。9月は平成14年度の秋季事務長会の研究発表題等。11月は定期監査、隣接雑木の伐採、職員OB会と活動状況、介護休暇の代替具申、研究発表題。1月、2月は研究発表題、事務長会会則改正案等。

本年度に入り、5月から8月までは毎月、研究発表題を集中的に協議検討してきました。2年余りの協議内容を振り返ってみると、大きいテーマもあれば、本当に細かいことと思われるものもあります。

諫早地区には、30年くらい前に通称「二金会」という事務研究会があり、事務職員が毎月第2金曜日に集まり、日頃疑問に思っていることや悩んでいることを積極的に議論し解決していく場がありました。この日々の研鑽の結果、昭和53年度に初心者でも分かる「工事請負費の予算要求から事業完了報告まで」の研究録を発表し、昭和63年度には、その改訂版を出しています。現在、二金会の名は薄れていますが、この研究は引き継がれています。

やはり、毎日の実務上の疑問等をいかに解決していくかを議論していく場や正しい処理方法を確認する場があるということは、非常に大事であると思います。教育改革という大きなうねりのなかでその趣旨を理解し、一人一人が意識を改革し、学校事務という職務に対して基礎、基本に立ち返り、明確に説明でき得るものを持たなければならぬと実感しています。これからも、諫早地区事務長会は、こういったことを念頭に置きながら研修を重ねていきたいと思っています。

会 員 漫 筆

私の春夏冬健康法

大村高等学校 山 口 和 昭

海や山が大好きで、狭い庭にはサツキ等の鉢物も並び、季節を問わず釣りや山歩き等に興じています。車社会のつけで生活習慣病も根付きだし、体を動かす必要にも迫られており、日々の運動不足解消策は私にとって大事なところとなっています。

私は、ある「山楽会」に加わり、春・秋年二回の山登りを楽しみにしています。一人では計画出来難い山・考えが及ばない場所等に行き、山登り後の充実感と素朴な温泉等が体験出来るからです。

初めの頃は、登りに余裕も有りましたが、今では一生懸命付いて行く状況であり、日頃の運動不足を身に染みて感じております。この会で、今後も沢山の出会いと体験を得る為、日頃から準備にも心掛け、併せて運動不足解消を図って行こうと思っています。

日頃の解消策は、仕事上でもなるだけ体を動かすことですが、家でも一時間程度歩くようにしています。団地周辺でも幾分か起伏に富んだ景色も残っており、自然の雰囲気も十分味わうことが出来ます。なるだけ短時間で効果が得られるよう平坦地を避けて歩き、次の山登りにも繋がるようにしています。

休日等には、少し範囲を広げて歩いたり、多良山麓や雲仙岳周辺まで足を延ばすこともしばしばです。

これらの山は、県内でも四季折々の素晴らしい景観と

充実感を与えてくれ、気軽に行けるところが魅力です。

日々歩くコースも季節により少し方法を変え、飽きないよう彩りを添えるようにしています。早春から初夏・秋にかけては、島周りの磯も歩きます。好きな釣り場巡りや磯遊びも兼ねられ、山登りの気分も味わえる一石二鳥の体験が出来るからです。

三時間程の島半周コースでは、途中、変化に富んだ岩場もあり、岬の大きな岩の上では、山頂近くの味わいも得られて、磯の香を一杯吸い込みしばしの休憩を取ります。勿論、安全第一に心掛け、登山靴や磯靴は欠かせません。

暑い時期は、団地周辺を早朝や夕暮れ時に歩くことになりませんが、早起きが苦手な私はなかなか実績が上がりにません。休日等で思い立った時は、既に日は高くなり、近くでは木陰も少ないので車を駆って多良山麓まで走り山際に車を止めて歩きます。

整備された緩やかな坂道の両側からは木陰が迫り暑い日中でも快適な歩きが出来ます。一時間程歩いた所に谷川も有り、冷たい清水で喉を潤し汗を拭いて暫しの休憩を取って帰ります。付近は、枝道もいろいろあって飽きない組み合わせが可能です。

雲仙山系でも同様の林道が数多くあり、楽しみの一つでした。

皆さんも一度経験されたら如何でしょう。



(尾瀬・至仏山頂で)

— 先輩 から —

この春に退職された方々から便りが寄せられました。どなたも心豊かにお過ごしようです。ありがとうございます。

「本 心」 小西 昇

退職したというのに、「ゆったり感」がありません。物事を先送りにした「つけ」が回ってきたものと思われず。儘よ、「なるようにしかならない」と開き直ったら、少し楽になった昨今です。よろしくお願いたします。

「メディカルスクール 一年生」 城谷 豊實

4月から理学療法士作業療法士の養成校・長崎医療技術専門学校に勤務しています。高齢化社会を迎え療法士に対する求人

数の多さに驚いています。私も今年60才。将来本校の卒業生の世話にならないよう注意して趣味に仕事にと思っています。

「気楽な生活」 田中 宏

現在、教育センターで嘱託として、週30時間勤務しています。ですから土、日、祭日及び水曜日は完全休日です。休日は、もっぱら洋画(ビデオ)を観たり散歩や水泳で過ごしています。それでは皆様、お体に気をつけて、仕事に頑張ってください。

「悠悠閑閑・日日これ好日」 山元 禎三

私は、現在県立総合体育館に嘱託として勤務しています。休日には、シーカヤック・野山の散策・庭いじり・写真と気ままな日々を送っています。アルコールの方も健在ですので、いつでもお声をかけて下さい。皆さんのご隆盛・ご活躍を祈念しています。



わが校自慢

鶴南養護学校 坊 野 隆 義

私たちの鶴南養護学校は、長崎市と三和町のちょうど境に位置し、深い緑の中に、メルヘンチックな赤いトンがり屋根が目印となっています。

学校の自慢の第一は、眺望と周囲の自然です。

三方を囲む山や林の四季折々に彩りを変える木々、眼下に見下ろす高島や端島などの島々、その向こうに限りなく広がる海などの眺めは、素晴らしいの一言に尽きます。今年4月に実施された校内アンケートでも、91人中77%の職員から「本校の好きなもの」として景色や自然があげられています。また、ここでは、ウグイスやホト

トギス、メジロなど、年中いろいろな鳥のさえずりが聞かれ、さらに、晩秋には、鶴が越冬のため、上空を旋回して方向を鹿児島県出水に変え、また、初春には、再び数百羽の鶴が名残を惜しむかのように鳴きながら旋回し、シベリアへ向けて旅立って行きます。

子供たちが心待ちにしている「鶴南まつり」は、11月に開催されます。日ごろの学習成果を発表する場でもありますが、高校生や大学生のボランティア、大勢の地域の方々にも参加していただき、「祭り」の楽しい一日を過ごしながら、交流を深めているのも自慢の一つです。また、老人会との清掃活動、役場・公民館等へのプラントの寄贈活動も地域との連携にひと役買っていますし、生徒が丹誠込めて栽培した野菜は地域の方々によく知られており、タマネギバザーでは短時間で売り切れてしまいます。

平成13年度長崎県学校給食推進学校等表彰優良賞を受賞した給食は、郷土色や季節感溢れるメニュー、行事に関係したメニュー等、食べる楽しみのための工夫をこらしており、おいしいと好評です。

最後に、職員一人一人が熱い思いを持って、日々精励していることを付け加えて、わが校の自慢を終わります。

随 想



「家庭教育の回復」が一番の願い

県教育庁生涯学習課長 浦川末子
「人の親の心は闇にあらねども」

子を思う故に 惑いぬるかな」

子どものしつけに不安と迷いがあるのは、今も昔も変わりません。しかし、今日、しつけは家庭が担うものと理解はされながらも、現実には学校や他者に依存している親の姿が問題となっています。当事者として自信と責任のある親になってもらうため、私たちも家庭教育に重点をおいて取り組んでいます。大多数の方が家庭教育を憂え、専門家も数多く提言しているこの時を好機として家庭教育の回復を目指したいと思います。

ここに、ある父娘の実例があります。

桂子さんの父親は3つの会社を経営する企業家で、桂子さんは、そんな父親を尊敬していました。ところが中学3年生の時、事業が失敗し、会社も家も人手に渡り、狭いアパート暮らしになってしまいました。憧れの私立高校も諦め、学校から帰れば働きに出た母親代わりに家事をしなければならなくなりました。全て父が悪いのだと決めつけ反発が始まります。非行グループに入り、家出をしていた時のことです。

「その日は嫌なことがあってみんなで公園のベンチを壊しに行こうということになりました。ところが昨日男の子たちが壊したベンチを一人の男の人が一生懸命修理していたのです。おい、よけいなことするなよ。そう言いながら男の子たちが近づいてきました。なんと父だったのです。逃げようとし

した。でも足が動きません。黙々と修理を続ける父の姿が私を捉えて離さないのです。やがて修理が終わり、ベンチを眺めてにっこり笑った父の顔を見たとき、私は何もかも忘れて父の元に駆け寄っていました。それから、ただ父の胸の中で泣きじゃくっていたのです。あれから1年。白い目で見られ、陰口を叩かれ、くじけそうになったこともありましたが、心に浮かんできたのは黙々とベンチを修理していた父の姿でした。今の私は、この両親の娘として恥ずかしくない人間になりたいと考え続けています。」

父親の無償の姿にうたれたことで、真の愛情を知った桂子さんは、今、人としての道をしっかりと歩き出しています。失意の毎日でありながら無償の働きを続けていたからこそ父親は娘を立ち直らせることができたのでしょう。

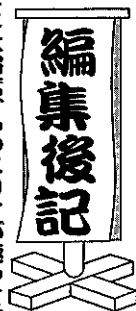
「子は親の心を実演する」と言われます。子どもは、親の心を自分の心として、親を手本にしてたくましく豊かに育ちます。

「ココロねっこ運動」は極めて身近で具体的で生活そのものから始まります。今、企業等へ家庭教育の出前講座を始めました。併せて、父親の子育て参加も強く訴えています。今後も御理解と御支援をよろしく願います。



11月は全国青少年健全育成強調月間です。

編集後記



こは密席、「めくり」が返って嘯家・山遊亭○太極師匠の出巻だ。賑やかな出巻子に送られて○太極師匠が高座に上がる。扇子を前に、師が深々と頭を下げるのど寸分たがわず「ピーッ、トーン」と頭を太鼓がびたりと出巻子を締めくくる。高座がみごとに決まる。

「エー、今夕もまた大勢様お運びで、まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。どこで、うかがいますってエト、こちら様では「はってん」なんぞどゆらお触れ書きをお出しになつたんだぞらで、エ？ お触れ書きじゃなくって「コーホーシ？」さゆですか。じゃ、その後方氏ってエのは、ゆつと後ろの方に隠れちゃコソコソ悪さはつかりする人のこと？ 達ら？ お前はノーチンキでゆゆなつて？ いやだま御隠居、そんなにホメちゃ、まあ、そんなことア、どらでもゆゆや。

今度から広報部ってのができたんだぞらで、ひからは「はってん」にもちよゆどぼつかり新ひの趣向を繰るぞらつてんで、その一つが「意見・意見・意見」ってやつ。事務職員の皆さんから単刀直入、歯に衣着せぬ物言のをしてもあつて、あわよくばそのつて事務長会をキウリとさせよらつて、おはつて、自分の学校の特色を思ひ切り自慢してあつて、それで少いでもウチのことを知つてもあつて粗いだよ。でも、なんにも自慢するところがなほ学校はどらすりやゆゆなつたぞらね。『自慢するどららのなゆゆのがウチの自慢です』なんて言らんだよ、きつと、

まあ、そんな学校あるワケなゆゆや。見せよらつて、見が健気だね、空、だから皆さん、どらぞらスミからスミまで読んでやつてくださゆな。でも読みつ放しはゆゆなゆゆ。肝心ののは批評だの感想だのを広報部に寄つて寄越すつてことなんだです。もどりのホメ言葉なんぞは余計つてもんだ。それより孝口の注文の方がクスリなゆゆや。言つちやアなんだが、アタクシなんか親の代か。『はってん』の味方だ。だから「はってん」ってやつにつゆちやア、皆さんぞらつて御鼻屑に願いますよ、ホンソに「一席終えた○太極師匠は密席で広報部長の肩をポンと叩いて、こら言つた。「みっ、がんはつてゆゆな、変通長」ほら、達らでゆゆら、師匠、編集長だつて言つてるのだ。」